

新入生の皆さん、東京医科歯科大学へのご入学 本当におめでとうございます。

本日、皆さんが新たなステージへと進むこの瞬間を、私たち教職員一同が共に迎えられることは、大きな喜びであります。皆さんがこれまで積み重ねてきた努力と成果が、大学への道を開いたことに、心から敬意を表します。また、その努力を支えてこられたご家族や関係者の皆様にも、お祝いを申し上げます。

皆さんの中には、やっと受験を終えて放心状態になっている人もいるかもしれませんが。すでに次のステップに向けて準備を始めている人もいるでしょう。しかし、皆さんが共有しているのは、これから始まる新たな道への期待と希望と若干の不安だと思います。

今年の元日、能登半島地震が発生し、多くの方々が被災されました。被災されたすべての方々に、心からのお見舞いを申し上げます。東京医科歯科大学では、医師や看護師、救急救命士など多職種で構成された職員 合計 27 名が被災地で支援活動を行いました。彼ら彼女たちは、インフラが復旧しない過酷な環境の中で、医療支援を行い、被災者のために献身的な活動を行いました。また、本学に残った職員も被災地に向かった職員の分まで業務を補うことで、間接的な支援を行い、「世のため人のために」最大限の医療を提供することができました。

今回の能登半島地震への派遣においても、本学のコロナ対応においても共通して言えることですが、我々は「世のため人のために」という、普遍的な価値を皆が共有し、その「普遍的な価値」が、職員を一つにし、それぞれの専門領域を超えた協力体制に繋がりました。

本学の学生は、皆、医学・歯学、医療に携わるための教育を受けます。医学・歯学・医療の多様化に伴い、その関わり方は様々です。しかしながら、根底で「世のため人のために」という思いを大切にし、新たな方法でチャレンジしていった欲しいと思います。

さて、皆さんがこれから目指す「学士」という学位はどのようなものでしょうか？

「学士」という学位は、専門分野における既存の学問を修めたことを示します。これは、その分野についての基本的な知識と理解を持ち、それを適用する能力を身につけていることを意味します。言い換えれば、「学士」の学位は高等教育の基礎を終えたことを証明するものであり、大学院へ繋がる道となります。また、皆さんの場合は、どの学科も修了時に、試験に合格すれば国家資格が取得できることとなります。

では、「修士」と「博士」の学位はどのようなものだと認識しているのでしょうか？皆さんのポテンシャルと将来への期待を込めて説明しておきます。

「修士」の学位は、学士で学んだ専門分野をさらに深める課程を示します。これは、より専門的な、特定の分野における高度な理論と実践的なスキルを習得し、さらに応用する能力を持つことを意味します。

一方、「博士」の学位は、新たな知見を生み出す能力を修めたことを示します。これは、その分野の最前線に立ち、新たな課題を設定し、それを解決する理論や方法を開発し、その分野を推進する能力を持つことを意味します。当該分野における研究を通じて新たな知識を創出し、その分野の発展に寄与することを目指すものです。

大学で学ぶということが少しはイメージできたでしょうか？

学術の進歩が激しい時代において、学びに終わりはありません。東京医科歯科大学は、生涯教育の時代だからこそ、医療者として、人間として、成長を続ける皆さんにとって、常に学び続けられる、更に成長できる場であり続けたいと考えます。

皆さん既にご存知のとおり、本学は、今年の10月に東京工業大学と統合し、「国立大学法人東京科学大学」となります。

東京科学大学では、自由でフラットな学風の下、多様な社会課題に立ち向かうために、単なる医工連携を超え、理工学、医歯学、さらには情報学、リベラルアーツ・人文社会科学などを収斂した「コンバージェンス・サイエンス」を展開します。自由でフラットな学風とは、お互いの自由を尊重し、自分の役割に自信と誇りを持ってチャレンジしていく文化です。共に「科学」を追究し、新たな価値創造を希求する人のみならず、広く「科学」に興味を持つ人をも含めて、多様な人たちをこれまで以上に惹きつける大学になりたいと考えています。

皆さんは東京医科歯科大学最後の新生でもありますが、東京科学大学の卒業生となり得るわけです。皆さんが Clinician Scientist、つまり、医療の視点を持った研究者と Scientific Clinician 科学的視点を持った医療者を目指して、多様な見識を持つ仲間とともに、これからの充実した学生生活を、そして、素晴らしい人生を送られることを祈念して、私のお祝いの言葉といたします。

本日は誠におめでとうございます。

2024年4月8日

東京医科歯科大学 学長 田中 雄二郎